

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	大阪市		学校名	大阪市立長吉小学校	
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	小学校2年生・生活	時数等	3 単元 合計36時間
目標・人権教育 のねらい	1 地域の「ひと・もの・こと」とかかわる活動を通して、自分たちの生活との関わりを見つけ、地域の一員としてあらゆる「ひと・もの・こと」に親しみと愛着を持てるようにする。 2 地域の「ひと・もの・こと」とかかわる活動を通して、地域の人々が地域に寄せる思いに気づき、相手の立場や状況を考えて取り組むことができるようにする。 3 地域の「ひと・もの・こと」とかかわる活動を通して、思ったことや感じたことを相手に伝わるように工夫することができるようにする。				
実施した内容	1「ドキドキ わくわく まちたんけん」 (にほんごアカデミーがあるよ 外国の人たちがたくさんいるよ なかよくなりたいな) 2「みんなで たのしく おもちゃランド」 (にほんごアカデミーの人たちといっしょにあそぼう うまくせつめいできるかな) 3「もっと なかよし まちたんけん」 (にほんごアカデミーに行ってみよう 外国の話を聞いてみよう)				
工夫した点	・ 多文化共生教育の視点でカリキュラムマネジメントを進め、「町たんけん」の学習と「おもちゃランド」の学習を関連付け、ストーリーの一貫性を持たせるようにした。 ・ 「ドキドキ わくわく まちたんけん」で留学生が日本語を学ぶ「日本語アカデミー」の存在に触れるようにして興味・関心を高められるようにした。 ・ 「みんなで たのしく おもちゃランド」では、学級でのおもちゃ作りとおもちゃ遊びを楽しんだ後に、留学生との交流することを知らせ、遊び方や説明の仕方を工夫する視点を持たせるようにした。 ・ 「もっと なかよし まちたんけん」では、留学生が「どんな様子で勉強しているのか」「どんな国から来ているのか」などさらに踏み込んだ形で関わるようにした。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

国語・音楽・図工・特別活動



- ・地域の「ひと・もの・こと」の中には留学生が学ぶ「日本語アカデミー」があり、留学生との交流を通して、いろいろな国から日本に学びに来ている実態を知り、親しみを持って接することの大切さを体感できた。
- ・「おもちゃランド」で遊び方やルールを説明する際には、自分たちで楽しく遊んだ経験をベースにして、日本語を学習している留学生に対して思いをはせ、「やさしい日本語」で話そうとしたり、ポスターにふりがなを入れたり、図やイラストにしてわかりやすく説明したりする姿が見られた。
- ・「おもちゃランド」の取組を通して、留学生と直接関わりを持てたことで、外国の人や暮らし、文化に興味を持ち多様性に対して開かれた心を持つことができ、「日本語アカデミー」に行ってみたいと他者を積極的に理解しようとする姿が見られた。

事業成果



- ・「日本語アカデミー」の職員の方からは、小学生に話をしたり、理解してもらえよう言葉の工夫をしたりすることは、実践的な取組となり留学生にとっても有益なことであるとの感想をいただいた。